

第4章 デザインルール

4-1 本体デザインコンセプト

公共サインの本体デザインは、次の考え方に基づいて検討を進める

■周辺とつながり、江東区全体の統一感を創出するシンプルなデザイン

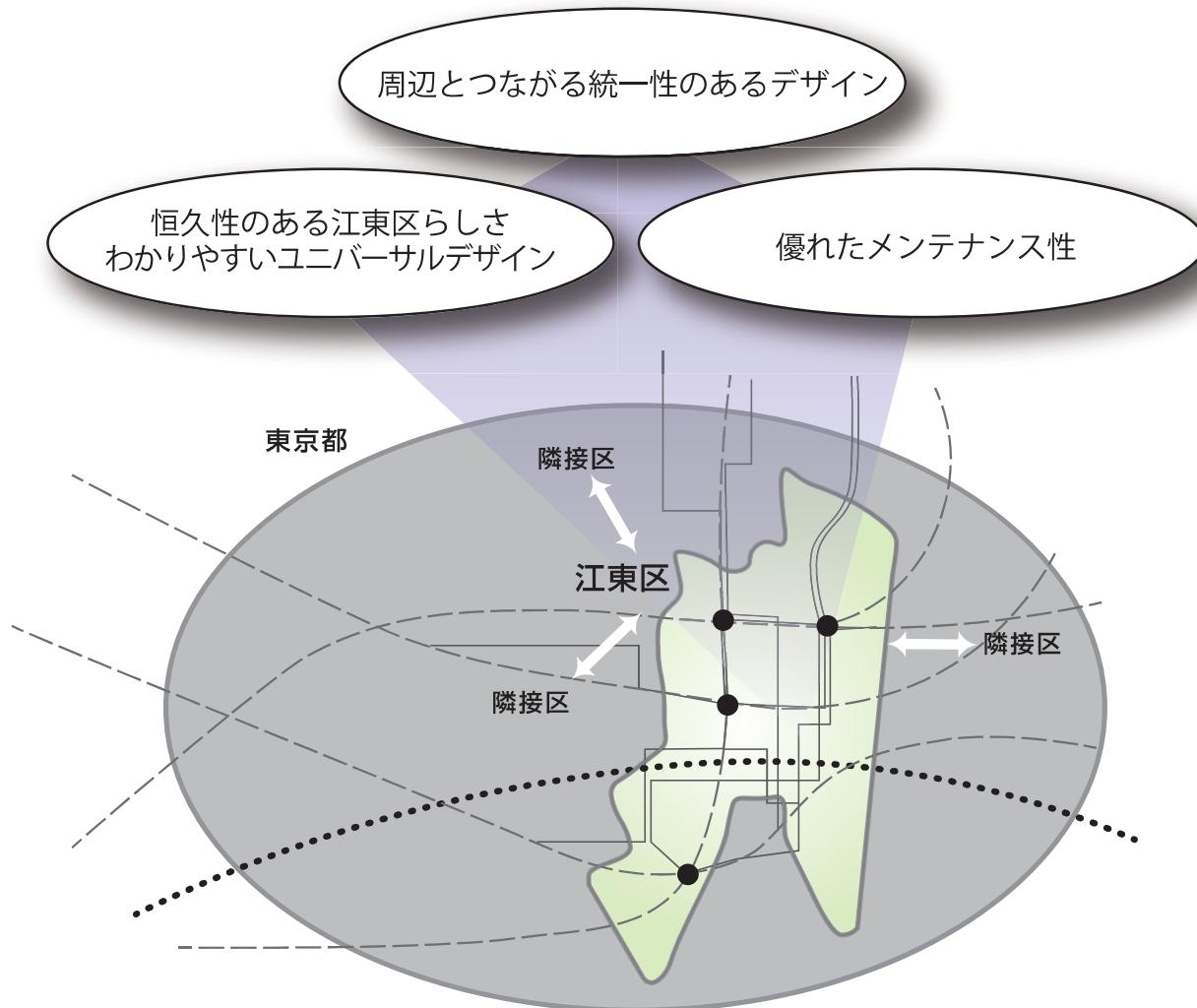
東京都の観光案内サイン、隣接区の公共サインと極端に差異がないよう利用者目線に立ったわかりやすい親切なデザインを目指す。また、本区深川・城東エリアに代表される下町情緒ある景観と臨海部に代表される都会的・先進的な景観の双方を包括できるシンプルなデザイン

■江東区らしさを演出する恒久的で親しみやすいデザインとわかりやすいユニバーサルデザイン

深川・城東エリアと臨海エリアを合わせた江東区のアイデンティティを確立し、都市景観の中で突出し過ぎず、風景の地となる恒久性のあるデザイン。言語の違いや障害のあるなし関係なく、だれでもわかりやすいユニバーサルデザイン

■メンテナンス性に考慮したデザイン

耐候性があり、汚れや衝撃対策等に考慮した素材構成やデザイン



■公共サイン本体デザイン考え方(概念図)

4-2 本体デザインの考え方

公共サインの本体デザインは、前頁の『本体デザインコンセプト』を基本としながら、平成27年に改定された『国内外旅行者のためのわかりやすい歩行者案内サイン標準化指針』(東京都産業労働局観光部)に準ずることで、利用者にとって最もわかりやすいサインデザインを目指す。

形態

- ・多様な景観との調和に配慮し、水平垂直を基調としたシンプルな形態とする。
- ・ユニバーサルデザインに配慮した表示サイズや高さの設定、及び遠方視認に配慮して、上部にiマークを掲出する。
- ・『国内外旅行者のためのわかりやすい歩行者案内サイン標準化指針』に準ずる。

色彩

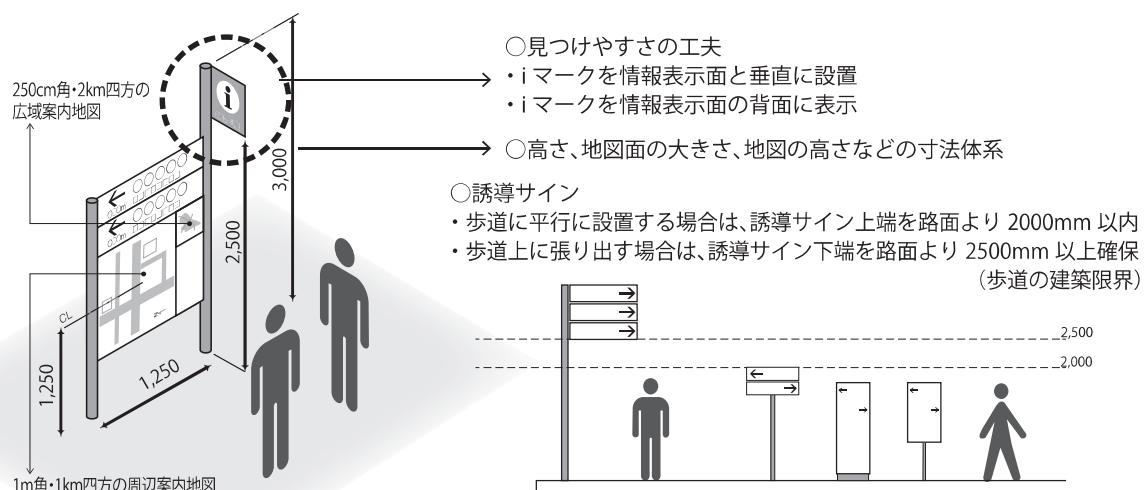
- ・本体カラーは、風景の地となる低明度、低彩度を基本とする。
- ・サインの顕在性を高めるため、アイキャッチとなるシンボルカラーを設定し、遠方からの視認性に配慮する。
- ・シンボルカラーは、江東区らしい色彩（青・緑）を検討する。

素材

- ・耐久性のある素材を選定する。
- ・情報更新がしやすい表示仕様とする。
- ・江東区らしい素材として、木材の活用※を検討する。

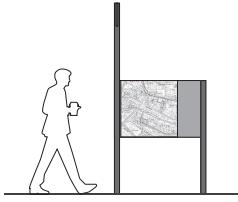
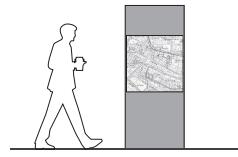
※江東区に木材問屋が多く集まる、昔からの特性をアピールすると同時に、「江東区公共建築物等における木材利用推進方針」により積極的な木材活用を推進していることなどを考慮する。

『国内外旅行者のためのわかりやすい歩行者案内サイン標準化指針』で示されている
本体の標準的なデザイン例



4-3 本体デザイン検討

形態：案内地図サイン

	A: 支柱型	B: 板型
	 <p>例：東京都観光案内サイン</p> 	 <p>例：墨田区公共サイン</p> 
景観親和性	表示面側からの視点において、視線の抜けが大きくBタイプより存在感が小さい	板面の存在感が大きいため、色彩等の配慮により景観との調和を図る必要がある
東京都観光案内標識との統一性	表示、形態ともに統一感を保ちやすい	形態が異なるため、iマークの掲出等、サインとしての共通性に配慮する必要がある
江東区らしさの表現	江東区らしさを感じる支柱のデザインや色彩、素材等の検討が必要である	板面の表示デザインにおいて、江東区らしい工夫が必要である
設置しやすさ	Bタイプより基礎が小さい	板面にて大きく視界が遮られるため、交通安全や防犯上、設置する場所を充分配慮する必要がある

江東区は東京都観光案内サインが多く設置されている。サインとしての認識のしやすさを配慮し、東京都観光案内サインとの統一感を重視したAタイプを基本としながら、江東区らしさを取り入れたデザインとする。

形態：誘導サイン

	A: 支柱型（矢羽根型）	B: 板型
	 	 
景観親和性	大きな面がないため景観に馴染みやすい	色彩等の配慮により景観との調和を図る
情報量	掲載出できる情報量が限られる (1方向4情報程度)	矢羽根型より情報量が多く掲出可
視認性	遠方からの視認性に優れる ※外国人が見慣れている形態	近距離からの視認性に優れる
設置しやすさ	表示板が大きいため設置環境が限られる	設置場所を確保しやすい
その他	交差点内に設置すると効果的な案内誘導が可能	設置環境が狭い環境や誘導対象が多い場所に適する

誘導サインは、設置環境や情報量、誘導方法等により適切な形態が異なるため、状況に応じて使い分けが可能となるように、A,B両方のタイプの誘導サインデザインを進めるものとする。

色彩：本体カラーの考え方

○文字と地と色彩の関係

一般的に、明度が低い地色と白文字の組み合わせAの方が、明度が高い地色と黒文字の組み合わせBより、膨張色である白が大きく見えるため、文字が見やすくなる効果がある。また、明るい地色の場合、視覚障がい者がまぶしく感じる場合があるため、表示面の反射等への配慮が必要である。

<p>A 地：低明度 文字：白文字</p> <p>【地色参考値】 RAL 7024</p>  <p>横浜市</p>	<p>B 地：高明度 文字：黒文字</p>  <p>宇都宮市</p> <p>豊洲 2・3 丁目地区</p>
---	--

本体カラーは、文字の見やすさの観点や景観的な観点を踏まえて、「A：明度が低い地色に白文字」を基本とする。

色彩：シンボルカラー

シンボルマークで使用されている青と緑をベースに、
サインのアイキャッチとして機能する色彩を設定する。

○シンボルカラー案

- A 河川、海に囲まれた水辺のまち
江東区を表現する「青」



- B 緑豊かな公園や庭園が多い江東区
を表現する「緑」



シンボルカラーは A の「青」を基本とする。

○参考

ロゴマーク



ハートの形は、スポーツの感動や鼓動と、江東区民の温かい人情（心）を同時に表現しています。また、文字の形は、江東区のまちなみを構成する河川・道路・建物等をイメージし、各文字の色には以下の意味を込めています。

赤：スポーツの情熱、さざんか（区の花）
橙：人情の温かさ、まちの賑わい
緑：緑豊かな都市、自然の安らぎ
青：河川、臨海部等の水辺環境
紫：伝統・文化の継承、江戸情緒

シンボルマーク



シンボルマークは、未来に向かつて躍進する江東区に相応しいトータルイメージのシンボルとして制定したものである。

K：臨海部に発展していく江東区の未来イメージ（KOTO ブルー）
O：下町に息づく人のこころの温もり（KOTO グリーン）
青：水辺のまち江東
緑：大切な自然環境
を表している。

素材：木材について

○天然木材の事例



伊勢市公共サイン



松本市公共サイン

○再生木の事例（プラスチック系原料＋木質系原料を加熱成形したもの）

みちのく潮風トレイル（出典：<https://townscape.kotobuki.co.jp/works/type2/sightseeing/231.html>）

○素材比較

	天然木（ハード）	再生木（樹脂+木粉）
耐候性・耐久性	△ 再生木より劣る	○ 優れる
メンテナンス性	△ 再生木より劣る	○ 優れる
素材感	○ 木本来の高級感	○ 木の風合いを有する
コスト	△ 再生木より割高	○ 天然木（ハード）より割安
その他	○ 硬くて加工しにくいがサイズは自由	○ 断面形状が規格サイズのみ △ 熱を吸収しやすく夏場は熱い

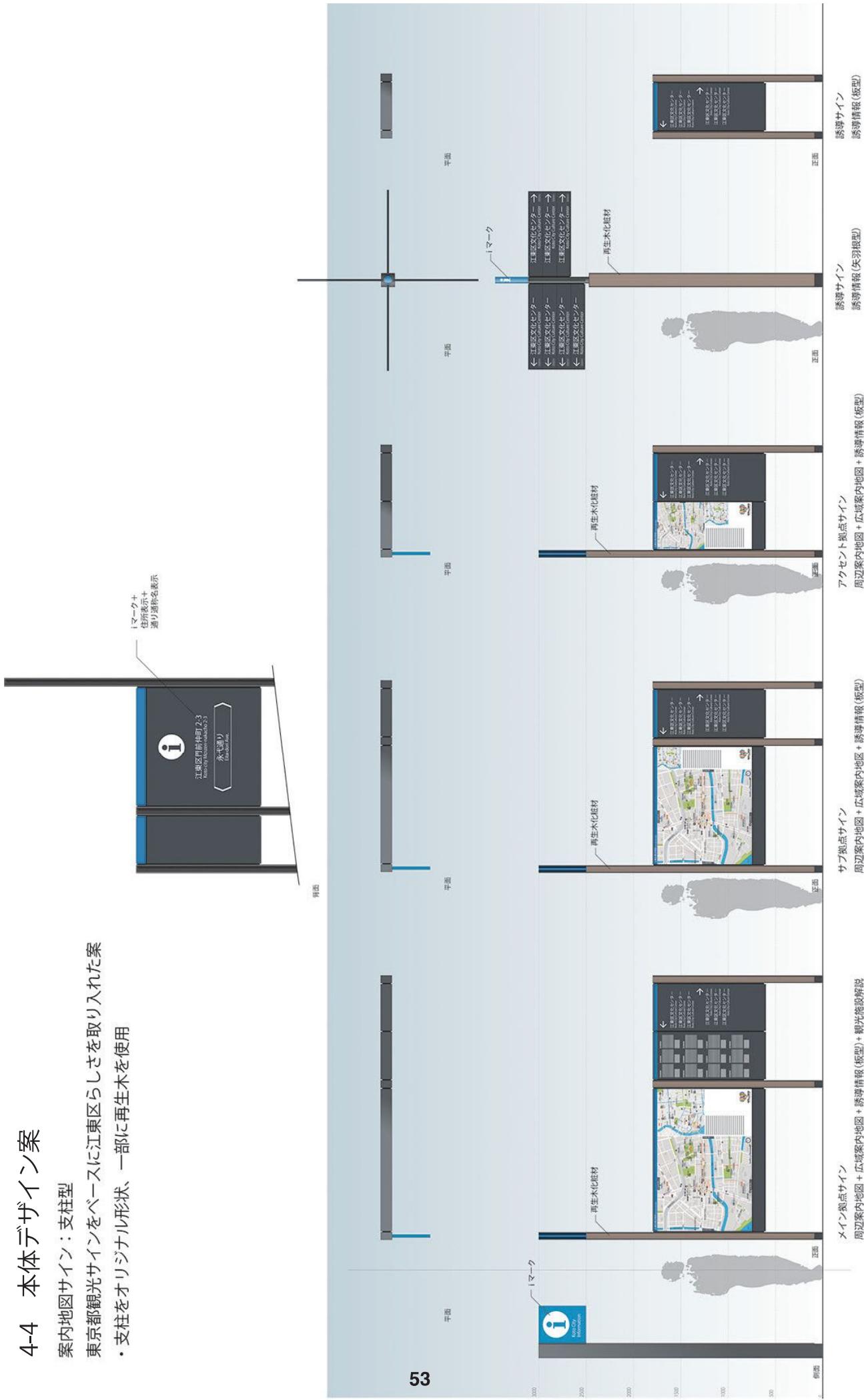
耐候性、経年による風合いや景観性の保持性などにより、再生木を採用する。

4-4 本体デザイン案

案内地図サイン：支柱型

東京都観光サインをベースに江東区らしさを取り入れた案

- 支柱をオリジナル形状、一部に再生木を使用



4-5 表示デザインの考え方

公共サインの表示デザインの考え方を次のように整理して検討を進める

■景観性と視認性のバランス

公共サイン本体として、都市景観を構成する要素（モノ）の1つとして強調しすぎることなくかつサインとしてのアイキャッチ（視認性）を備えたビジュアル・コーディネートされた都市景観性とサインの視認性のバランスがとれたデザインとする

■だれもが見やすいユニバーサルデザイン・江東区のまちのイメージにふさわしい表示デザイン

子ども・高齢者・目の不自由な方・車いすの方・外国の方など、だれにとっても見やすくわかりやすいユニバーサルデザインと同時に、江東区のイメージに合った表示デザインを目指す

■メンテナンス性に考慮したデザイン

耐候性があり、情報更新しやすい表示システムを検討する

4-6 表示デザイン検討

■わかりやすい表示

1. 徒歩圏がわかる距離表示

現在地からの距離感の目安として、半径 400m（5 分程度）を表示する



2. 地図表示エリア外にある主要な施設等の方面を案内表示する

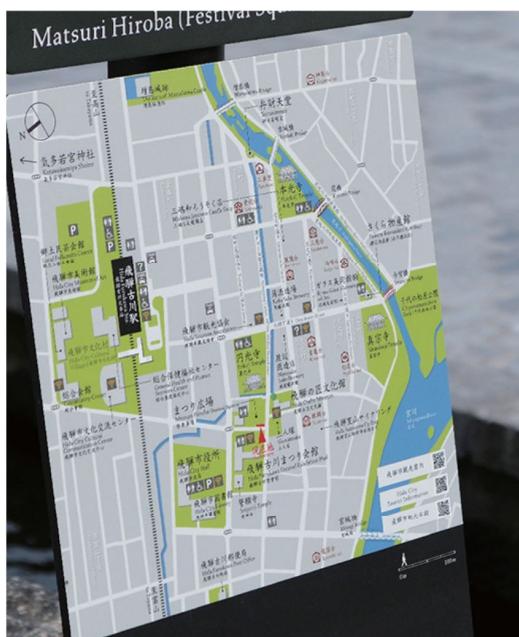


■魅力を高める表示

1. 江東区の特徴的な橋や施設をアイコン化する



2. 水辺と緑の色彩が映えるよう、他の要素は極力モノトーンとする



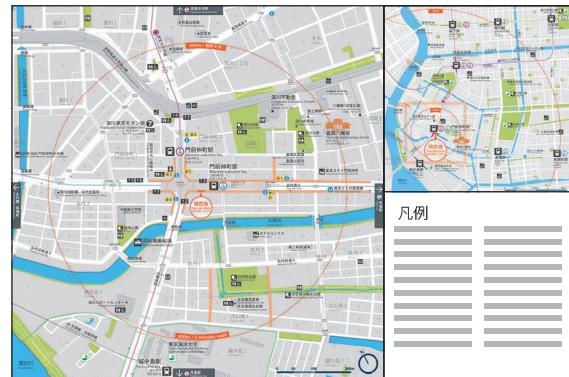
■掲載範囲の検討-1

周辺案内地図：東京都観光案内サインとの整合を考慮した地図サイズ及び掲載範囲を設定する。
 広域案内地図：サインの種類や地域の特性を踏まえ、以下に検討案を示す。

既存市街地エリア（深川・城東）

1案：深川・城東エリア各々全体を掲載できる範囲（3km四方）を見やすく500mm角とした案

広域案内
0.5mx0.5m (3km,1/6000)
周辺案内
1mx1m (1km,1/1000)



2案：深川・城東エリア各々全体を掲載できる範囲（3km四方）を東京都観光案内サインの広域案内図と同様の250mm角とした案

広域案内
0.25mx0.25m (3km,1/6000)
周辺案内
1mx1m (1km,1/1000)



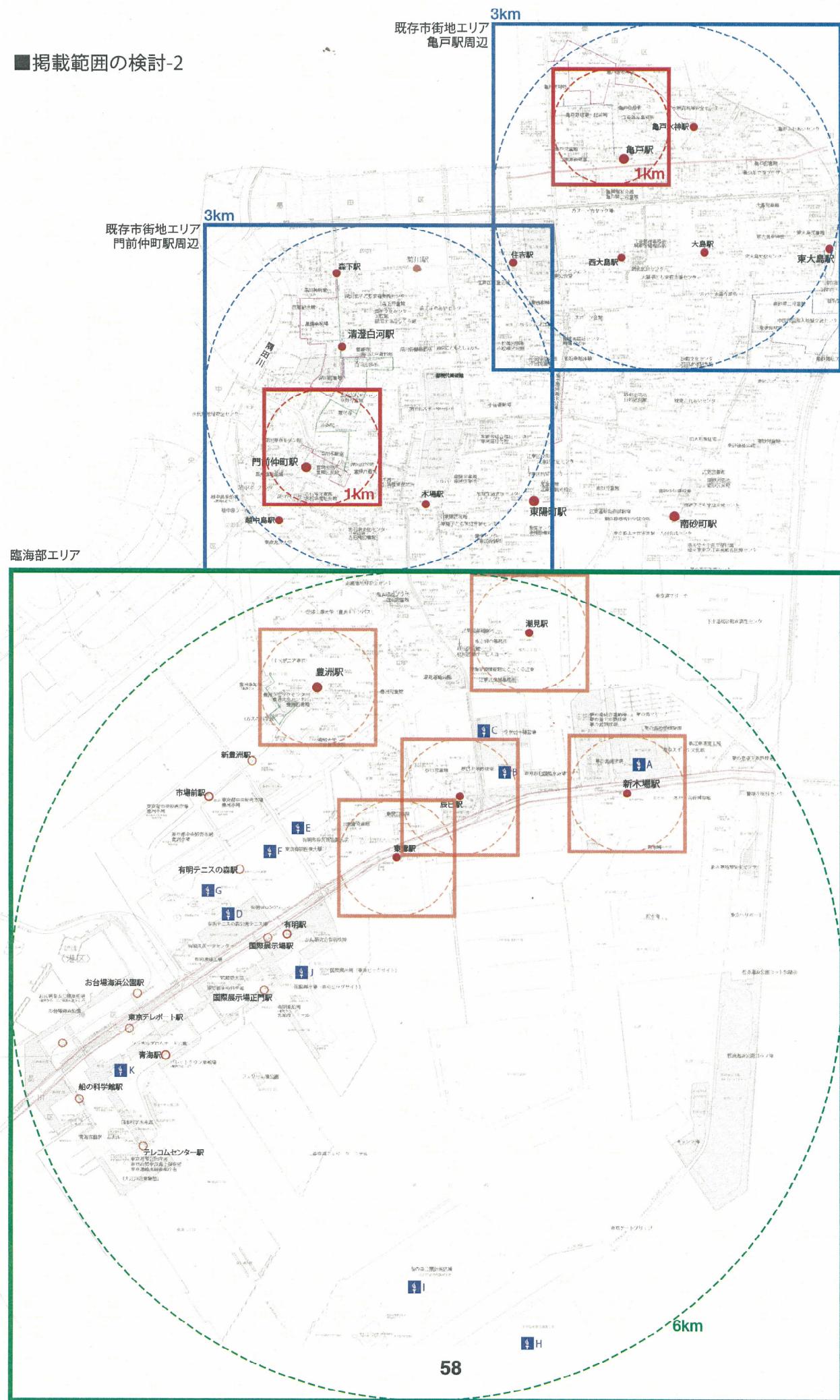
臨海部エリア

臨海部エリア全体を掲載可能な範囲で、周辺案内と同一サイズで掲出した案

広域案内
1mx1m (約7km, 約1/7000)
周辺案内
1mx1m (1km,1/1000)



■掲載範囲の検討-2



■アイコンデザインについて

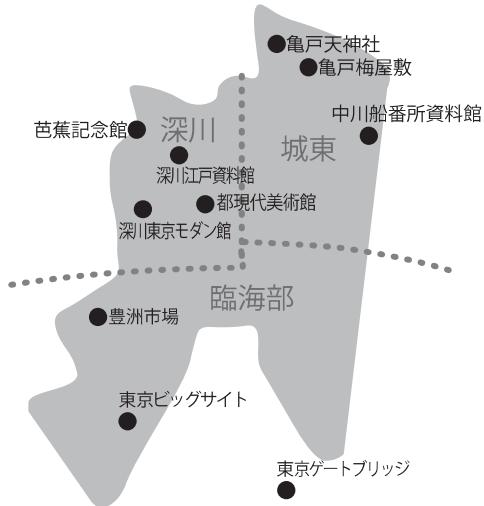
江東区らしさを演出、且つわかりやすさ向上させるため、主要な観光施設等の区独自のアイコンデザインを提案する。詳細は実施設計段階で検討するが、次の施設についてのアイコンデザイン作成を行うものとする。

●集客力のある観光施設

深川 ……深川東京モダン館 深川江戸資料館 芭蕉記念館 富岡八幡宮 東京都現代美術館

城東 ……亀戸梅屋敷 中川船番所資料館 亀戸天神社

臨海部……東京ゲートブリッジ 東京ピッグサイト 豊洲市場



●橋梁

【重要文化財】 ……旧弾正橋(八幡橋)、清洲橋、永代橋

【江東おでかけ情報局】 ……小名木川クローバー橋、新大橋、清洲橋、漣橋、萬年橋、永代橋、夢の大橋、東京ゲートブリッジ、辰巳桜橋

【イベント等で活用】 ……ふれあい橋

【江東区まちなみ景観賞】 ……新田橋

4-7 表示デザイン案

■周辺案内地図

門前仲町エリア

1,000mm×1,000mm

縮尺 1/1,000

掲載基準は別途参照



■広域案内地図

門前仲町エリア

500mm×500mm, 250mm×250mm 縮尺 1/6,000

掲載基準は別途参照



■使用書体

サイン全般の文字表現（案内地図、観光情報、バスのりば案内、誘導情報など、基本全ての文字情報に使用する書体は、可読性・判読性に優れたものとする。

【推奨書体】

日本語：たづがね角ゴシック

あいうえおかきくけこ
門前仲町駅

英語：Neue Frutiger

ABCDEFGHIJKLMN
abcdefghijklmnop
1234567890
Monzen-nakacho Station

中国語（簡体字）：ヒラギノ角ゴ簡体字

门前仲町站

韓国語：FOTK-YD Gothic 140

몬젠나카초 역